

人間福祉学研究科

【概 要】

幼い命の犠牲が増える中で庇護すべき親の心に何が起きているのか？ 絶望の中にある人をどのようにケアすべきなのか？ 相互扶助の仕組みが弱まっている昨今、私達はもしたら助け合う仕組みを再構築できるのか？ 人間福祉学研究科は、古今内外の研究成果を踏まえつつ、今後の展望と課題を語り合う研究科を目指す。

(1) 福祉学分野科目群

社会的な支援を必要とする人々が直面する諸問題と、福祉社会の実現を目指す営みについて研究。医療政策の問題や高齢者や障害者などの生活と支援の理念、制度・政策、援助技術の課題を取り上げて考究する。

(2) 児童学分野科目群

「子どもが変わった、わからなくなった」と言われる今日の社会にあって、子どもの発達と環境、家族、子育て支援について研究。特にいじめや虐待、ひきこもり、自殺などの具体的な問題を取り上げ、その背景と解決策を考える。

(3) 臨床死生学・牧会カウンセリング・スピリチュアルケア分野科目群

心の疲れを感じ、痛みを負い、空虚感にとらわれ、あるいは生と死の意味について向き合う現代人の心と霊性の問題について、臨床的実践的な研究を行う。問題の根幹と背景、必要とされる支援の方法について考究する。

☆「演習Ⅱ」科目の内容は、履修学生の修士論文のテーマに沿って研究指導を行う。

コア科目群

研究法入門			古谷野 亘
講義科目	春学期集中	2単位	
講義概要			
本講義では研究を行うために必要とされる技術、特に実証的な研究の技術である。情報を集め分析するための枠組みづくりから、文献の検索と収集、量的調査の計画と実施、論文の書き方までを解説して、オリジナルなデータによって修士論文を作成しようとする学生に必要な基礎知識を提供する。			
授業計画			
1. イントロダクション - 大学院で学ぶ 2. 研究のための技術 3. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (1) 4. 社会・行動科学における法則的知識の限界 (2) 5. 文献の探し方と入手方法 (1) 6. 文献の探し方と入手方法 (2) 7. 研究のプロセスとモデル (1) 8. 研究のプロセスとモデル (2) 9. 調査の設計と現実的考慮 (1) 10. 調査の設計と現実的考慮 (2) 11. 論文の書き方, 発表の仕方 (1) 12. 論文の書き方, 発表の仕方 (2) 13. 修論作成までのプロセス (1) 14. 修論作成までのプロセス (2) 15. まとめと課題・総合討論			
評価方法	(1)出席:30% (2)レポート:70%		
準備学習 (予習)	授業は概ね教科書通りに進むので、次回に相当する箇所を読んでおくとい。		
準備学習 (復習)	研究の遂行に必要な技術の修得のため復習が必須である。		
教科書	古谷野 亘,長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』 (ワールドプランニング)		

キリスト教人間学研究			阿部 洋治
講義科目	春学期	2単位	
講義概要			
人間とは何か。この問題は、教育、福祉、コミュニティのあらゆる事柄と関係する。キリスト教は、罪、弱さ、惨めさ、虚しさの深みから人間をとらえつつ、そうした人間が生かされるダイナミックな人間理解を提示している。この講義においては、W・パンネンベルク『人間学 神学的考察』を読みながら、人間学的探求の手がかりを模索したい。			
授業計画			
1. はじめに 聖書の人間理解 2. 第1章 人間の特殊な地位 3. 第2章 世界開放性と神的似像性 4. 第3章 中心性と罪 5. 第4章 主観性と社会 (1) 6. 第4章 主観性と社会 (2) 7. 第5章 アイデンティティの問題 (1) 8. 第5章 アイデンティティの問題 (2) 9. 第6章 情動的生の主題としての同一性と非同一性 (1) 10. 第6章 情動的生の主題としての同一性と非同一性 (2) 11. 第7章 文化の基礎 (1) 12. 第7章 文化の基礎 (2) 13. 第9章 人間と歴史 (1) 14. 第9章 人間と歴史 (2) 15. まとめ			
評価方法	(1)出席率:50% (2)レポート:50%		
準備学習 (予習)	講義で紹介する参考文献に目を通す。とくに、講義の中で用いる文献を熟読し、その内容の正確な理解に努める。		
準備学習 (復習)	講義を通して気付いたことについて文章化することを常に心がけてほしい。		
教科書			

調査研究法Ⅰ（量的研究）			古谷野 亘
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学的研究法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、心理学的尺度構成法の手順を実例をあげつつ解説し、可能であれば履修者の関心に応じて調査票作成、データ分析、もしくは尺度開発の演習を行う。			
授業計画			
1.Ⅰ. 社会調査の理論と方法 (1)サンプリング①			
2.(1)サンプリング②			
3.(2)データ収集の方法①			
4.(2)データ収集の方法②			
5.(3)調査票の作成と質問文(1)①			
6.(3)調査票の作成と質問文(1)②			
7.(4)調査票の作成と質問文(2)①			
8.(4)調査票の作成と質問文(2)②			
9.Ⅱ. 調査データの分析 (1)統計の目的①			
10.(1)統計の目的②			
11.(2)1変数の分析①			
12.(2)1変数の分析②			
13.(3)クロス表と関連度の係数①			
14.(3)クロス表と関連度の係数②			
15.(4)相関と回帰①			
16.(4)相関と回帰②			
17.(5)推定と検定①			
18.(5)推定と検定②			
19.(6)多変量解析(1)①			
20.(6)多変量解析(1)②			
21.(7)多変量解析(2)①			
22.(7)多変量解析(2)②			
23.Ⅲ. 測定法 (1)測定の妥当性と信頼性①			
24.(1)測定の妥当性と信頼性②			
25.(2)構造方程式モデリング(1)①			
26.(2)構造方程式モデリング(1)②			
27.(3)構造方程式モデリング(2)①			
28.(3)構造方程式モデリング(2)②			
29.(4)まとめと課題・総合討論①			
30.(4)まとめと課題・総合討論②			
評価方法	(1)参加率:30% (2)レポート:70%		
準備学習 (予習)	授業は概ね教科書の通りに進むので、次回の箇所を予め読んでおくことよ。		
準備学習 (復習)	量的研究は“数学っぽい”ことから敬遠されがちであるが、質的研究法より簡単で、基礎的である。ただし、知識・技術の修得には積み重ねが必要であるから、復習は必須である。		
教科書	古谷野 亘,長田 久雄 『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』(ワールドプランニング)		

調査研究法Ⅱ（質的研究）			小倉 啓子
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
質的研究法は、人々の行為や語りを日常的で自然な現場の環境を重視し、文化・社会・時間的文脈の中で捉えようとする研究方法である。そのため、医療、看護、介護、教育、心理臨床、福祉、グリーフ、矯正、経営など、人と人が相互作用する領域で広く用いられている。人間の認識や行動、感情、人間を取り巻く社会環境を理解したり、問題の改善に向けた提案をしたりするうえで有効な方法である。本講義の前半では、質的研究の基本として、質的研究の目的や意義、代表的な方法を概観し、いろいろな質的研究法による研究論文を購読する。後半は、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の習得を目指し、問題意識の明確化を始め、M-GTAを実践する上で必要な分析方法を学ぶ。実際のデータを使って概念生成とカテゴリー生成、モデル作成までを経験する。言語表現やインタビューの練習を続け、自分の研究テーマと質的研究の関連についても考えていく。			
授業計画			
1. 授業の進め方の説明。質的研究の特性と意義①。 宿題のテーマ説明。 2. 授業の進め方の説明。質的研究の特性と意義②。 宿題のテーマ説明。 3. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的研究の特性と意義③。 4. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的研究の特性と意義④。 5. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的研究の概要・種類①。 6. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的研究の概要・種類②。 7. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的研究の概要・種類③。 8. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的研究の概要・種類④。 9. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的論文の購読。 10. 宿題テーマの発表と分かち合い。質的論文の購読。 11. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの概要①：歴史・特性。 12. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの概要②：歴史・特性。 13. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの概要③：基本用語・研究テーマ。 14. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの概要④：基本用語・研究テーマ。 15. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの実習①：ワークシートを用いた概念生成。宿題のテーマ説明。 16. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの実習②：ワークシートを用いた概念生成。宿題のテーマ説明。 17. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの実習③：ワークシートを用いた概念生成。宿題のテーマ説明。 18. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの実習④：ワークシートを用いた概念生成。宿題のテーマ説明。 19. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの実習⑤：ワークシートを用いた概念生成。M-GTA論文購読。 20. 宿題テーマの発表と分かち合い。M-GTAの実習⑥：ワークシートを用いた概念生成。M-GTA論文購読。 21. M-GTAの実習⑦：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 22. M-GTAの実習⑧：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 23. M-GTAの実習⑨：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 24. M-GTAの実習⑩：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 25. M-GTAの実習⑪：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 26. M-GTAの実習⑫：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 27. M-GTAの実習⑬：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 28. M-GTAの実習⑭：ワークシートを用いた概念生成・カテゴリー生成・まとめ。 29. まとめと振り返り①。 30. まとめと振り返り②。			
評価方法	(1)授業への参加:40% (2)期末レポート:40% (3)出席:20%		
準備学習 (予習)	①問題意識の明確化、言語表現の洗練のために宿題が出るので、必ず実行すること。②指定した著書、論文を読むこと。		
準備学習 (復習)	①実習の結果を整理すること。②一回一の講義のあと、講義を通して自分の研究（修士論文）についての考えを確認すること。③日常場面など出会った印象に残る言語表現をメモする等、言葉や表現に関心をもつこと。		
教科書	木下 康仁 『ライブ講義M-GTA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』（弘文堂）		

保育・教育実践研究法			入江 礼子
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
「保育」がどのような原理で行われているかを理解した上で保育・教育実践研究の論文の分析及び「保育記録」を中心とした実践研究の手法等を学んでいく。さらに保育・教育実践現場での参加観察をもとにした実践報告を検討することでその手法を身につける。			
授業計画			
1. はじめに「保育・教育実践研究」とは① 2. はじめに「保育・教育実践研究」とは② 3. 保育の原理(1)① 4. 保育の原理(1)② 5. 保育の原理(2)① 6. 保育の原理(2)② 7. 保育の原理(3)① 8. 保育の原理(3)② 9. 保育の原理(4)① 10. 保育の原理(4)② 11. 保育・教育実践研究の分析と検討(1)① 12. 保育・教育実践研究の分析と検討(1)② 13. 保育・教育実践研究の分析と検討(2)① 14. 保育・教育実践研究の分析と検討(2)② 15. 保育・教育実践研究の分析と検討(3)① 16. 保育・教育実践研究の分析と検討(3)② 17. 保育・教育実践研究の分析と検討(4)① 18. 保育・教育実践研究の分析と検討(4)② 19. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(1)① 20. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(1)② 21. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(2)① 22. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(2)② 23. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(3)① 24. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(3)② 25. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(4)① 26. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(4)② 27. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(5)① 28. 保育・教育実践研究の検討と実践報告(5)② 29. 総括① 30. 総括②			
評価方法	(1)本講義へ積極的参加:30% (2)課題:40% (3)レポート:30%		
準備学習 (予習)	配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読みこんで出席すること。授業での報告等はレジュメ等を作成し、積極的に取り組むこと。		
準備学習 (復習)	授業後に自ら見出した課題への理解を深めること。		
教科書			

社会福祉学研究			牛津 信忠
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
社会福祉を広義に捉えて人間福祉という上位概念に立った講義を行うが、その基軸として、深刻な生活問題を担う人々の福祉から出発することを、全ての問題状況へのアプローチに於いて重視する。講義においては、人間学的な福祉哲学から説き起こし、その理念に照合しながら海外や日本におけるこれまでの福祉状況を検証するとともに、さらに、微視的に、人がその潜在性をも含む可能性を発揮し、自らの生きる地域社会でともどもに行き会っていく条件を深く探っていきたい。それは人格主義的な相互生存の条件究明への誘いとなる。			
授業計画			
1. 狭義・広義の社会福祉領域(1)① 2. 狭義・広義の社会福祉領域(1)② 3. 社会福祉の理論的枠組み——人間福祉への道① 4. 社会福祉の理論的枠組み——人間福祉への道② 5. 人間福祉の過去・現在・将来① 6. 人間福祉の過去・現在・将来② 7. 相互的人格主義の福祉における位置① 8. 相互的人格主義の福祉における位置② 9. 社会福祉の歴史的現実と諸政策① 10. 社会福祉の歴史的現実と諸政策② 11. 福祉目的と多元的規定力(1)① 12. 福祉目的と多元的規定力(1)② 13. 福祉目的と多元的規定力(2)① 14. 福祉目的と多元的規定力(2)② 15. 福祉形成過程における相互主義 (1) ① 16. 福祉形成過程における相互主義 (1) ② 17. 福祉形成過程における相互主義 (2) ① 18. 福祉形成過程における相互主義 (2) ② 19. ボランタリイな人間存在の意味① 20. ボランタリイな人間存在の意味② 21. 人格主体の形成と権利認定・援助責務① 22. 人格主体の形成と権利認定・援助責務② 23. 人格主体と自我主体の連結に関する考察① 24. 人格主体と自我主体の連結に関する考察② 25. 「潜在能力アプローチ」に基づく福祉システム① 26. 「潜在能力アプローチ」に基づく福祉システム② 27. ダイナミックな福祉パラダイムと危機からの離脱① 28. ダイナミックな福祉パラダイムと危機からの離脱② 29. 相互人格主義的人間福祉論① 30. 相互人格主義的人間福祉論②			
評価方法	(1)出席率:30% (2)貢献度:10% (3)参加意欲:20% (4)レポート等:40%		
準備学習 (予習)	教科書を用いるので、事前にその日の授業の該当箇所を読んでおくことを推奨する。その上で、疑問箇所の提示や皆で討論することを希望する箇所等の提案ができるようにしておくこと。		
準備学習 (復習)	授業終了後、当日学んだ教科書の箇所を再読し理解を深める。紹介された参考文献をできれば手にとって読む。		
教科書	牛津 信忠『社会福祉における場の究明—共感的共同からトポスへ至る現象学的考察』(丸善プラネット) 牛津 信忠『社会福祉における相互的人格主義 (1) 一人間の物象化からの離脱と真の主体化をめざして』(久美) 牛津 信忠『社会福祉における相互的人格主義 (2) 一人間の物象化からの離脱と真の主体化をめざして』(久美)		

ソーシャルワーク研究			助川 征雄
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
本講では、「C/Rapp著:ストレングスモデル」や本職の「英国リカバリー・イノベーション研究」などの要点の紹介と多様な現場情報の擦り合わせを行ってゆく。			
授業計画			
1. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか① 2. オリエンテーションーいまわれわれはどこにいるか② 3. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向① 4. これまでの内外の実践理論と新たな実践理論の動向② 5. ストレングスモデル(1)① 6. ストレングスモデル(1)② 7. ストレングスモデル(2)① 8. ストレングスモデル(2)② 9. ストレングスモデル(3)① 10. ストレングスモデル(3)② 11. ストレングスモデル(4)① 12. ストレングスモデル(4)② 13. ストレングスモデル(5)① 14. ストレングスモデル(5)② 15. ストレングスモデル(6)① 16. ストレングスモデル(6)② 17. リカバリー・イノベーション(1)イギリスの経年的動向を中心に① 18. リカバリー・イノベーション(1)イギリスの経年的動向を中心に② 19. リカバリー・イノベーション(2)ImROCKー行政構造改革① 20. リカバリー・イノベーション(2)ImROCKー行政構造改革② 21. リカバリー・イノベーション(3)IPＳー新たな就労支援① 22. リカバリー・イノベーション(3)IPＳー新たな就労支援② 23. リカバリー・イノベーション(4)Recovery College ① 24. リカバリー・イノベーション(4)Recovery College ② 25. リカバリー・イノベーション(5)Peer Support Worker① 26. リカバリー・イノベーション(5)Peer Support Worker② 27. リカバリー・イノベーション(6)わが国における応用の可能性① 28. リカバリー・イノベーション(6)わが国における応用の可能性② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②			
評価方法	(1)出席率:30% (2)レポート:20% (3)平常点 (課題):50%		
準備学習 (予習)	授業前には、教科書や配布資料の授業予定部分を予習し、その部分に関連する身近な実践事例やエピソード報告メモなど (提出不要)を準備しておくこと。		
準備学習 (復習)	教科書要点の再確認		
教科書	チャールズ・A. ラップ, リチャード・J. ゴスチャ,田中 英樹『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント』(金剛出版)		

児童学研究			田澤 薫
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
児童学研究では、児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。福祉学の諸分野の中でも児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願い、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程でいろいろな困難に出会っても、どの子の育ちもしあわせであってほしいと願う視座に立って研究を進めるためには、まず、子どものしあわせとは何だろう、と考えることから始めたい。さらには、そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているか、自問する必要があるだろう。			
授業計画			
1. はじめに「児童」を研究すること① 2. はじめに「児童」を研究すること② 3. 子どもの捉え方① 4. 子どもの捉え方② 5. 子どもの時間と発達理解① 6. 子どもの時間と発達理解② 7. 制度からみる子ども理解① 8. 制度からみる子ども理解② 9. 子ども理解における記録の意味① 10. 子ども理解における記録の意味② 11. 保育・教育・援助の実践研究の方法① 12. 保育・教育・援助の実践研究の方法② 13. 保育・教育・援助の場面記録分析(1)① 14. 保育・教育・援助の場面記録分析(1)② 15. 保育・教育・援助の場面記録分析(2)① 16. 保育・教育・援助の場面記録分析(2)② 17. 保育・教育・援助の実践研究分析(1)① 18. 保育・教育・援助の実践研究分析(1)② 19. 保育・教育・援助の実践研究分析(2)① 20. 保育・教育・援助の実践研究分析(2)② 21. 保育・教育・援助の実践研究分析(3)① 22. 保育・教育・援助の実践研究分析(3)② 23. 保育・教育・援助の実践研究分析(4)① 24. 保育・教育・援助の実践研究分析(4)② 25. 保育・教育・援助の実践研究分析(5)① 26. 保育・教育・援助の実践研究分析(5)② 27. 保育・教育・援助の実践研究分析(6)① 28. 保育・教育・援助の実践研究分析(6)② 29. 総括① 30. 総括②			
評価方法	(1)出席、積極的参加:30% (2)課題報告:30% (3)レポート:40%		
準備学習 (予習)	配布した論文・資料を指定した授業回までに必ず読み込んでおく。授業での課題報告はレジュメを作成し主体的に準備する。		
準備学習 (復習)	慣れるまでは、ノート整理をお勧めします。また、修士論文研究に直結する資料を多く扱います。自分の研究に関連深い資料は、授業でのディスカッションを踏まえて、授業後にさらに読み込みましょう。		
教科書			

発達心理学研究			石川 由美子
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
子どもの育ちの過程および環境とのかかわりについての概要を講義した後、発達研究に関わる文献購読と発表を主体に講義を展開する。			
授業計画			
1. オリエンテーションおよび子どもの発達（育ち）の過程とは①			
2. オリエンテーションおよび子どもの発達（育ち）の過程とは②			
3. 子どもの発達1 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文①			
4. 子どもの発達1 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文②			
5. 子どもの発達2 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文①			
6. 子どもの発達2 身体的、精神的構造の生物学的成長と成熟を観点にした論文②			
7. 子どもの発達3 文化的発達 心理学的道具①			
8. 子どもの発達3 文化的発達 心理学的道具②			
9. 子どもの発達4 文化的発達 活動と意識①			
10. 子どもの発達4 文化的発達 活動と意識②			
11. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達1 赤ちゃん学文献購読			
12. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達1 赤ちゃん学文献購読			
13. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達2 社会的貧困文献購読			
14. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達2 社会的貧困文献購読			
15. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達3 脳科学文献購読			
16. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達3 脳科学文献購読			
17. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達4 脳科学文献購読			
18. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達4 脳科学文献購読			
19. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達5 こども虐待文献購読			
20. 発達の影響を及ぼす環境と子どもの発達5 こども虐待文献購読			
21. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応1 知的障害①			
22. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応1 知的障害②			
23. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応2 発達障害①			
24. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応2 発達障害②			
25. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応3 発達障害①			
26. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応3 発達障害②			
27. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応4 病弱児①			
28. 生き難さを抱えた子供たちへの理解と対応4 病弱児②			
29. 講義のまとめ 発達研究の現代的課題と研究方法①			
30. 講義のまとめ 発達研究の現代的課題と研究方法②			
評価方法	(1)参加状況:50% (2)課題報告:50%		
準備学習 (予習)	指示した文献をあらかじめ講読しておくこと。		
準備学習 (復習)	1から3の領域で、論文の検索、および論文のレビュー、報告まで、できるだけ自主的に繰り返し、実践的な力を身につけることを期待する。		
教科書			

スピリチュアルケア研究			窪寺 俊之
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
医療、看護、介護の領域で、患者や家族のQOLにとってスピリチュアルケアの重要性が叫ばれている。人の「いのち」の根底が揺れ動く時、人の魂の問題であるスピリチュアリティが問題になる。ここでは、医療、看護、介護でのスピリチュアルケアの必要性・歴史的歩み・本質などを概観しながら、日本のスピリチュアルケアの現在を明らかにする。その上で、スピリチュアルケアの具体化への問題を検討する。			
授業計画			
1. スピリチュアルケアの必要性、歴史的背景① 2. スピリチュアルケアの必要性、歴史的背景② 3. スピリチュアルケアの本質Ⅰ（何が問題になっているのか）① 4. スピリチュアルケアの本質Ⅰ（何が問題になっているのか）② 5. スピリチュアルケアの本質Ⅱ（心理的ケア、宗教的ケアとの比較）① 6. スピリチュアルケアの本質Ⅱ（心理的ケア、宗教的ケアとの比較）② 7. スピリチュアルケアの理論（村田理論、谷山理論など）① 8. スピリチュアルケアの理論（村田理論、谷山理論など）② 9. スピリチュアリティとは何か（スピリットが示すもの）① 10. スピリチュアリティとは何か（スピリットが示すもの）② 11. スピリチュアリティと危機（スピリチュアルティの覚醒）① 12. スピリチュアリティと危機（スピリチュアルティの覚醒）② 13. スピリチュアルケアと癒し、救い① 14. スピリチュアルケアと癒し、救い② 15. スピリチュアルケアの本質Ⅲ（超越性、究極性、癒し、自分らしさ）① 16. スピリチュアルケアの本質Ⅲ（超越性、究極性、癒し、自分らしさ）② 17. ケアギヴァーの問題（動機、人格、資質、訓練など）① 18. ケアギヴァーの問題（動機、人格、資質、訓練など）② 19. スピリチュアルケアワーカーに誰がなるのか① 20. スピリチュアルケアワーカーに誰がなるのか② 21. スピリチュアルケアのネットワークを作る① 22. スピリチュアルケアのネットワークを作る② 23. スピリチュアルケアワーカーが居るメリット① 24. スピリチュアルケアワーカーが居るメリット② 25. スピリチュアルケアの先行研究① 26. スピリチュアルケアの先行研究② 27. スピリチュアルケアの研究手法① 28. スピリチュアルケアの研究手法② 29. まとめ① 30. まとめ②			
評価方法	(1)レポート:50% (2)出席:30% (3)貢献度:20%		
準備学習 （予習）	スピリチュアルケアに期待されているものを考えて教科書を読んでほしい。		
準備学習 （復習）	毎回の授業の内容を整理し、応用がきくようにする。		
教科書	窪寺 俊之『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）窪寺 俊之『スピリチュアルケア学序説』（三輪書店）窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説（関西学院大学論文叢書）』（三輪書店）D.D.ウィリアムズ、窪寺 俊之『魂への配慮（1981年）』（日本基督教団出版局）島蘭 進『スピリチュアリティの興隆—新霊性文化とその周辺』（岩波書店）		

福祉学分野科目群

臨床死生学研究			伊藤 高章
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
科学技術の発展と医療における biomedical model の支配的影響の中、臨床死生学は「いのちの尊厳」を守る学問として展開して来た。不可避である死を見据えながら生きる人間についての総合的な研究である。人間を「身体的」な存在としてだけでなく、「社会的」「心理精神的」そして「スピリチュアル」な存在として捉え、全人的ケアの基盤を提供している。死は生物学上の出来事だけにとどまらない。哲学、倫理、宗教、文学、芸術、歴史、文化、法、政治、経済等における意味や象徴を理解して初めて、死に向き合う人間が見えてくる。本講義では、死生学の多面性と、臨床における課題を学ぶ。文献からの学習と並び、受講生各自の現場での取り組みから学ぶ姿勢を大切にしたい。			
授業計画			
1. 科学技術と人間① 2. 科学技術と人間② 3. 「身体性」と臨床死生学 1 ① 4. 「身体性」と臨床死生学 1 ② 5. 「身体性」と臨床死生学 2 ① 6. 「身体性」と臨床死生学 2 ② 7. 「スピリチュアリティ」と臨床死生学 1 ① 8. 「スピリチュアリティ」と臨床死生学 1 ② 9. 「スピリチュアリティ」と臨床死生学 2 ① 10. 「スピリチュアリティ」と臨床死生学 2 ② 11. 「心理精神性」と臨床死生学 1 ① 12. 「心理精神性」と臨床死生学 1 ② 13. 「心理精神性」と臨床死生学 2 ① 14. 「心理精神性」と臨床死生学 2 ② 15. 「社会性」と臨床死生学 1 ① 16. 「社会性」と臨床死生学 1 ② 17. 「社会性」と臨床死生学 2 ① 18. 「社会性」と臨床死生学 2 ② 19. 死と宗教① 20. 死と宗教② 21. 死と文化① 22. 死と文化② 23. 死と芸術① 24. 死と芸術② 25. 死と倫理① 26. 死と倫理② 27. 死と法① 28. 死と法② 29. まとめ① 30. まとめ②			
評価方法	(1)出席、ディスカッション:30% (2)プレゼンテーション:40% (3)レポート:30%		
準備学習 (予習)	毎週、教科書もしくは参考文献を1～2章ずつ検討する。		
準備学習 (復習)	授業内容を各自の経験に照らして、リアクション・ペーパーを書く。		
教科書	鎌田東二『講座スピリチュアル学 第1巻 スピリチュアルケア (地球人選書 講座スピリチュアル学)』(ビイングネットプレス)		

障害者福祉特論			木下 大生
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
この講義では、障害のある人たちの「人権」を念頭に置きつつ、主として知的障害者施設入所者の地域移行促進の観点からこれまでの障害者政策を顧み、これらの障害者政策を考える。 今や障害者政策の大きな課題とされる施設入所者の地域移行推進の視点から、これまでの国連の取り組みや、日本の障害者政策を顧みる。関係法令の変遷、政策転換の契機となった審議会答申等の資料を手がかりとしつつ、収容主義から地域移行への方向転換、近年の障害者施策による計画的・制度的な地域移行推進という流れを確認し、地域移行の必然性を検証する。さらに、今後の地域移行の進展に伴う障害者施設機能の変容を予測する。また、24回の講義を通じて履修者が特に興味を持ったトピックについて、各々文献等を利用し、まとめ、その内容を報告する。それにより研究の方法、研究成果の報告の方法、並びに障害者福祉についての理解を深める。			
授業計画			
1. 障害者の置かれている状況① 2. 障害者の置かれている状況② 3. ノーマライゼーション原理の成立と発展① 4. ノーマライゼーション原理の成立と発展② 5. 国際連合の人権思想の展開① 6. 国際連合の人権思想の展開② 7. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―① 8. 日本の障害者福祉施策の歴史的展開―概要―② 9. 大規模保護収容施設実現に至る道のり① 10. 大規模保護収容施設実現に至る道のり② 11. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽① 12. 日本の施設の整備促進と在宅福祉政策の萌芽② 13. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行(1)① 14. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行(1)② 15. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行(2)① 16. 障害者自立支援法による計画的・制度的な地域移行(2)② 17. 現代の障害者福祉の課題(1)① 18. 現代の障害者福祉の課題(1)② 19. 現代の障害者福祉の課題(2)① 20. 現代の障害者福祉の課題(2)② 21. 障害者福祉の研究動向(1)① 22. 障害者福祉の研究動向(1)② 23. 障害者福祉の研究動向(2)① 24. 障害者福祉の研究動向(2)② 25. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション(1)① 26. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション(1)② 27. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション(2)① 28. 関心のあるトピックに関するプレゼンテーション(2)② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②			
評価方法	(1)出席、講義への参加姿勢、課題への取り組み姿勢と報告内容:100%		
準備学習 (予習)	双方向的な授業とするため、院生から積極的な発言を期待する。そのため、授業前にはシラバスを毎回必ず確認し、テーマについて自分なりに理解を深める作業をしておくこと。		
準備学習 (復習)	配布した資料、授業内容の振り返りを各自行っていただきたい。		
教科書			

高齢者保健福祉特論		
古谷野 亘		
講義科目	春学期	4単位
講義概要 本講義では、高齢者保健福祉の歴史の変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。		
授業計画 1. I. 高齢者保健福祉の歴史から学ぶ(1)歴史をみる視点① 2. I. 高齢者保健福祉の歴史から学ぶ(1)歴史をみる視点② 3. (2)老人ホームの歴史① 4. (2)老人ホームの歴史② 5. (3)老人医療費の推移① 6. (3)老人医療費の推移② 7. (4)ホームヘルプ事業の変遷① 8. (4)ホームヘルプ事業の変遷② 9. (5)介護保険導入の意味① 10. (5)介護保険導入の意味② 11. (6)介護保険導入によってわかった“福祉”の意味① 12. (6)介護保険導入によってわかった“福祉”の意味② 13. II. 文献講読と討議(1)家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死”① 14. II. 文献講読と討議(1)家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死”② 15. (2)地域包括ケアの課題① 16. (2)地域包括ケアの課題② 17. (3)介護予防の可能性① 18. (3)介護予防の可能性② 19. (4)保健福祉サービスの利用を規定する要因① 20. (4)保健福祉サービスの利用を規定する要因② 21. (5)要介護認定の問題① 22. (5)要介護認定の問題② 23. (6)介護保険下における老人ホームの経営① 24. (6)介護保険下における老人ホームの経営② 25. (7)在宅サービス事業者の課題① 26. (7)在宅サービス事業者の課題② 27. (8)高齢者保健福祉サービスを支える人① 28. (8)高齢者保健福祉サービスを支える人② 29. (9)まとめと課題、総合討論① 30. (9)まとめと課題、総合討論②		
評価方法	(1)授業への参加度:30% (2)レポート:70%	
準備学習(予習)	文献講読の際には当該文献と関連資料を精読するなどの予習が必要になる。	
準備学習(復習)	討議の振りかえりと論点の整理などの復習が必要である。	
教科書		

精神保健福祉特論		
相川 章子		
講義科目	春学期	4単位
講義概要 1. 内容 精神保健および精神障害者を取りまく状況について歴史的・全体的にとらえ、日本および欧米諸国における動向をふまえつつ、その延長線上にある現在の精神保健福祉におけるソーシャルワークの実践およびその課題について学び、検討する。2. カリキュラム上の位置づけ 精神保健福祉に関する基礎的総論的内容とともに、精神障害者のみならずソーシャルワーク全体への般化および応用について考察し、深めることのできる各論的内容を盛り込み、より実践的なソーシャルワークについて検討するものとして位置づける。		
授業計画 1. I. 精神保健福祉論総論 1) 精神障害者福祉の歴史的背景① 2. I. 精神保健福祉論総論 1) 精神障害者福祉の歴史的背景② 3. 2) 精神障害者福祉における医療・施設・地域生活支援① 4. 2) 精神障害者福祉における医療・施設・地域生活支援② 5. 3) 精神障害者福祉におけるソーシャルワーク① 6. 3) 精神障害者福祉におけるソーシャルワーク② 7. 4) 欧米諸国における精神保健福祉① 8. 4) 欧米諸国における精神保健福祉② 9. 5) 精神障害者福祉から精神保健への拡大① 10. 5) 精神障害者福祉から精神保健への拡大② 11. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開(1)セルフヘルプ・ピアサポート① 12. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開(1)セルフヘルプ・ピアサポート② 13. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開(2)ストレングスとエンパワメント① 14. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開(2)ストレングスとエンパワメント② 15. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開(3)リカバリー① 16. II. 精神保健福祉論各論 1) 精神障害者対象化からの変化とソーシャルワークの新たな展開(3)リカバリー② 17. 2) ソーシャルワークにおける当事者主体① 18. 2) ソーシャルワークにおける当事者主体② 19. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性(1)アメリカのプロシューマーの動向と課題① 20. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性(1)アメリカのプロシューマーの動向と課題② 21. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性(2)日本のプロシューマーの動向と課題① 22. 3) プロシューマー萌芽にみるパラダイム転換の可能性(2)日本のプロシューマーの動向と課題② 23. 4) 専門職と当事者の協働の思想(1)支援するもの-されるもの(二元論的支援関係)からの脱却① 24. 4) 専門職と当事者の協働の思想(1)支援するもの-されるもの(二元論的支援関係)からの脱却② 25. 4) 専門職と当事者の協働の思想(2)循環的支援関係構築に向けて① 26. 4) 専門職と当事者の協働の思想(2)循環的支援関係構築に向けて② 27. 5) 欧米諸国における精神保健福祉ソーシャルワークの動向① 28. 5) 欧米諸国における精神保健福祉ソーシャルワークの動向② 29. III. 文献講読および研究法 1) ソーシャルワークにおける研究・実践・理論の循環① 30. III. 文献講読および研究法 1) ソーシャルワークにおける研究・実践・理論の循環②		
評価方法	(1)出席状況:30% (2)参加状況及びディスカッション:30% (3)レポート:40%	
準備学習(予習)	授業内で指定する文献や課題についての準備を行い、ディスカッションが深められることを願います。	
準備学習(復習)	ディスカッションの内容等について振り返り、自らの意見や見解についてさらなる吟味を重ねることを願います。	
教科書	相川章子 『精神障がいピアサポーター』（中央法規出版）	

福祉工学特論			野口 祐子
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
福祉工学特論では、障がい者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点で捉え、生活の可能性を広げ、暮らしを豊かにするための環境整備について、工学的な方策や解決手法を学ぶ。			
授業計画			
1. 少子高齢社会と住環境の歴史的展開① 2. 少子高齢社会と住環境の歴史的展開② 3. 少子高齢社会と住環境の現状① 4. 少子高齢社会と住環境の現状② 5. 福祉住環境整備の重要性① 6. 福祉住環境整備の重要性② 7. 高齢者・障がい者の障がい特性① 8. 高齢者・障がい者の障がい特性② 9. 高齢者・障がい者の自立と環境整備① 10. 高齢者・障がい者の自立と環境整備② 11. バリアフリーとユニバーサルデザイン① 12. バリアフリーとユニバーサルデザイン② 13. 福祉用具① 14. 福祉用具② 15. 住環境整備に関する法制度① 16. 住環境整備に関する法制度② 17. 住環境整備の方法① 18. 住環境整備の方法② 19. 住環境整備の実際① 20. 住環境整備の実際② 21. ライフスタイルの多様化と住まい① 22. ライフスタイルの多様化と住まい② 23. 福祉のまちづくりの歴史と現状① 24. 福祉のまちづくりの歴史と現状② 25. 福祉のまちづくりに関する法制度① 26. 福祉のまちづくりに関する法制度② 27. 福祉のまちづくりの実際① 28. 福祉のまちづくりの実際② 29. まとめ① 30. まとめ②			
評価方法	(1)出席:30% (2)レポート:40% (3)発表:30%		
準備学習 (予習)	授業の中で参考文献、資料等を紹介する。各回の授業のテーマに沿って関連した文献を読み、関心を持って授業に臨んでいただきたい。		
準備学習 (復習)	自ら参考文献を探したり、事例の見学や体験をして、理解を深めていただきたい。関心を深めて、レポートのテーマを見つけていってほしい。		
教科書			

臨床心理学特論			長谷川 恵美子
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
臨床心理学の定義や理念、歴史などについて概説するとともに、実際の心理アセスメント、心理療法をロールプレイなど体験を通して幅広く学ぶことを目的としている。また、臨床心理学の方法では、各種心理療法の理念とその背景にある理論を紹介するとともに、学校、医療、産業など、実社会における臨床心理学の特徴や課題について具体的に概説し、その理論と実践との結びつきを学習し、臨床心理学の特徴や課題について参加者と深く議論する。			
授業計画			
1. 臨床心理学とは① 2. 臨床心理学とは② 3. 臨床心理学の歴史① 4. 臨床心理学の歴史② 5. 精神分析学とは① 6. 精神分析学とは② 7. 交流分析とは① 8. 交流分析とは② 9. イメージの心理学とは① 10. イメージの心理学とは② 11. さまざまな芸術療法① 12. さまざまな芸術療法② 13. 行動主義心理学とは① 14. 行動主義心理学とは② 15. 認知にかかわる心理療法① 16. 認知にかかわる心理療法② 17. 心理アセスメントとは① 18. 心理アセスメントとは② 19. 心理アセスメント実習① 20. 心理アセスメント実習② 21. 学校現場における心理臨床① 22. 学校現場における心理臨床② 23. 産業領域における心理臨床① 24. 産業領域における心理臨床② 25. 医療現場における心理臨床① 26. 医療現場における心理臨床② 27. 事例検討① 28. 事例検討② 29. まとめ① 30. まとめ②			
評価方法	(1)課題への取り組み、発表、ディスカッションなどの内容70% (2)レポート:30%		
準備学習 (予習)	参考資料や文献を自主的に読むこと。授業時に割り当てられたテーマについて、プレゼンテーション方法を含め、十分準備すること。		
準備学習 (復習)	授業での経験をしたことを振り返り、教科書や資料で復習することが望ましい。		
教科書			

児童学分野科目群

環境保健学特論			中村 磐男
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
環境保健学特論は、衛生学・公衆衛生学・予防医学・環境保健学など、様々な称されている分野を含み、扱う範囲は、境界領域を含めて広い。近年、放射能汚染、熱中症の多発、ノロウイルス感染症、病原大腸菌O157 集団発生、新型インフルエンザ、デング熱およびエボラ出血熱等が問題となっている。施設・学校・職場・家庭を問わず、感染予防・感染症対策を含む環境管理、健康管理を行うためには、環境と衛生に関する知識と考え方は欠かすことができない。 シラバスは、感染症予防、温熱条件・換気等の室内環境衛生、上下水道・衛生設備、廃棄物処理、中毒等の事故とその防止、環境汚染・公害防止、地球環境保全などを例示した。 受講生の専門性や要望も考慮して、場合によっては講義内容を一部組み換え、生活習慣病対策、保健衛生行政、保健医療サービスなどにより重点をおいた内容としたいと思っている。 なお、必要に応じて、参考図書、原著論文、総説なども紹介する。			
授業計画			
1. 健康と環境、健康に影響する環境因子 2. 予防医学の概念と一次予防、二次予防 3. 感染症とその予防1（感染成立の3要因と感染症予防） 4. 感染症とその予防2（免疫、自然免疫、適応免疫、集団免疫と限界密度） 5. 感染症とその予防3（予防接種、勧奨接種、生ワクチン、トキソイド） 6. 感染症とその予防4（平素無害菌、日和見感染、易感染者、垂直感染） 7. 感染症とその予防5（性感染症、H I VとAIDS） 8. 感染症とその予防6（新興感染症、再興感染症、殺菌と消毒） 9. 室内環境衛生1（温熱環境と熱中症） 10. 室内環境衛生2（空気、換気、二酸化炭素、一酸化炭素） 11. 室内環境衛生3（騒音と難聴、音圧レベル、周波数） 12. 室内環境衛生4（照明、その他） 13. 環境の化学的要因1（酸素欠乏症、有機溶剤中毒、鉛中毒） 14. 環境の化学的要因2（中毒と事故） 15. 環境の物理的要因1（紫外線、赤外線、マイクロ波、レーザー光、気圧） 16. 環境の物理的要因2（電離放射線と非電離放射線） 17. 水と健康 1(上水道整備の目的) 18. 水と健康 2(浄水処理、沈殿、濾過、消毒、緩速濾過、急速濾過) 19. 水と健康3(水道水の水質基準とその決め方) 20. 水と健康4(水道水の水質基準項目) 21. 下水道・衛生設備（下水処理の目的、方法、下水道、尿尿処理） 22. 廃棄物処理（一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理廃棄物） 23. 食品保健、食中毒予防1（微生物に起因する食中毒①感染型） 24. 食品保健、食中毒予防2（微生物に起因する食中毒②毒素型） 25. 食品保健、食中毒予防3（植物性自然毒、動物性自然毒） 26. 食品保健、食中毒予防4（化学物質に起因する食中毒、ヒ素、PCB、ダイオキシン） 27. 環境汚染と公害1（環境基本法、7大典型公害、大気汚染） 28. 環境汚染と公害2(水質汚濁、水俣病、イタイイタイ病) 29. 地球環境問題1(国境を越える汚染、酸性雨、越境廃棄物) 30. 地球環境問題2(オゾン層の破壊、地球温暖化)			
評価方法	(1)講義へに参加度:50% (2)レポートおよび発表等:50%		
準備学習 (予習)	参考図書として学部教科書「南江堂:シンプル衛生公衆衛生学」を例に挙げた。予習として関連箇所を読んで、疑問点をメモしてほしい。新聞等、世の中で問題となっている話題等にも関心をもってほしい。		
準備学習 (復習)	紹介する図書・文献等を積極的に読破してほしい。		
教科書			

児童福祉特論			中谷 茂一
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。 1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実践 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実践			
授業計画			
1. 子ども家庭福祉における「子ども」観① 2. 子ども家庭福祉における「子ども」観② 3. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題① 4. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題② 5. 少子社会と福祉環境① 6. 少子社会と福祉環境② 7. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ① 8. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ② 9. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷① 10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷② 11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点① 12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点② 13. 具体的なサービス内容と課題点① 14. 具体的なサービス内容と課題点② 15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源① 16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源② 17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職① 18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職② 19. 「子ども虐待」をとりまく神話① 20. 「子ども虐待」をとりまく神話② 21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」① 22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」② 23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし① 24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし② 25. 子ども虐待の社会的対応と限界① 26. 子ども虐待の社会的対応と限界② 27. スクールソーシャルワークの実践① 28. スクールソーシャルワークの実践② 29. ディスカッション① 30. ディスカッション②			
評価方法	(1)出席率:20% (2)ディスカッション参加状況:40% (3)レポート:40%		
準備学習 (予習)	ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。		
準備学習 (復習)	ディスカッションに積極的に参加し、考察した内容に関連する文献を読むことが望まれる。		
教科書			

児童文化特論			寺崎 恵子
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
フレールは「遊びは人生の鏡である」と述べている。これを、私たちはどう理解しようか。私たちは、子どもの豊かな生に遊びが必要不可欠であることをよく知っている。けれども、遊びは子どもの仕事であって子どもを遊ばせることが大人の仕事である、という考えに私たちはとらわれていないだろうか。津守真は言う。「子ども自身の世界の本質があらわれるような遊びがあるということ、すなわち、子どもが十分に遊ぶことができるということは、あたりまえのようでありながら簡単なことではない。それにはおとなの支えが必要である」(『子ども学のはじまり』8頁)と。時と場に応じて生々発展する遊びは、時と場によって衰退し消滅することもある。子どもに添い立つ者としての大人の生き方が遊びに映っていることを、私たちはどう把握しているだろうか。また、岡本夏木は言う。「遊びは文化の産物であるとともに、現実の文化を超えてゆく力を、また文化が人間をむしろでゆくの抵抗する力を宿していたはず」だ(『幼児期』111頁)と。私たちは、遊ぶ子どもをその傍らで微笑み眺めているだけではいられない。遊びは、創造的であり、同時に破壊的である。その両義性に気づきながら、遊びの力動性とその価値を、私たちはどう把握しているだろうか。フレールが述べたことを、様々な遊び論・遊び観に確認して、遊び研究の可能性を考えたい。			
授業計画			
1. 遊び観について：子ども期の特性とする理解① 2. 遊び観について：子ども期の特性とする理解② 3. 子どもの遊び：ライフサイクルと余暇① 4. 子どもの遊び：ライフサイクルと余暇② 5. 遊び論：楽しさ① 6. 遊び論：楽しさ② 7. 遊び論：融合① 8. 遊び論：融合② 9. 遊び論：反映① 10. 遊び論：反映② 11. 遊び論：象徴① 12. 遊び論：象徴② 13. 遊びの特性：同調① 14. 遊びの特性：同調② 15. 遊びの特性：周縁① 16. 遊びの特性：周縁② 17. 遊びの特性：中動相① 18. 遊びの特性：中動相② 19. 遊びの構造：隠れる① 20. 遊びの構造：隠れる② 21. 遊びの構造：円形と方形① 22. 遊びの構造：円形と方形② 23. 遊びの構造：揺れる① 24. 遊びの構造：揺れる② 25. 遊びの構造：繰り返す① 26. 遊びの構造：繰り返す② 27. 遊びの時空：記憶① 28. 遊びの時空：記憶② 29. 遊び研究の可能性① 30. 遊び研究の可能性②			
評価方法	(1)報告:30% (2)議論への参加:35% (3)期末レポート:35%		
準備学習 (予習)	各回の内容についての文献を読んで、報告の準備をする。		
準備学習 (復習)	討論内容をふまえた考察を各自でまとめて、次回にそれを報告する。		
教科書			

児童文学特論			松本 祐子
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
近年、児童文学は、世界的ベストセラーが出たり、新旧の名作が次々に映画化されたり、その地位は一段と高まり、大きな影響力を持つジャンルとして注目されている。児童文学作品の中に描かれる子どもたちは、現実の子どもの姿を反映するものであると同時に、時代や空間を超えて、子どもの新しい価値や可能性を産み出しながら、我々に様々な示唆を与えてくれる。			
授業計画			
1. 児童「文学」以前:神話と伝説① 2. 児童「文学」以前:神話と伝説② 3. 児童「文学」以前:昔話① 4. 児童「文学」以前:昔話② 5. 児童文学に見られる子ども像① 6. 児童文学に見られる子ども像② 7. 児童文学の中の家族:母親像① 8. 児童文学の中の家族:母親像② 9. 児童文学の中の家族:父親像① 10. 児童文学の中の家族:父親像② 11. 児童文学における大人の役割① 12. 児童文学における大人の役割② 13. 児童文学における魔法:異世界ファンタジー① 14. 児童文学における魔法:異世界ファンタジー② 15. 児童文学における魔法:エブリディ・マジック① 16. 児童文学における魔法:エブリディ・マジック② 17. 児童文学の中の魔女たち① 18. 児童文学の中の魔女たち② 19. 児童文学の中の魔法使いたち① 20. 児童文学の中の魔法使いたち② 21. 児童文学に見られる主人公とその相棒① 22. 児童文学に見られる主人公とその相棒② 23. 児童文学創作の試み:キャラクター作り① 24. 児童文学創作の試み:キャラクター作り② 25. 児童文学創作の試み:小説の文体① 26. 児童文学創作の試み:小説の文体② 27. 児童文学に表現される食べ物① 28. 児童文学に表現される食べ物② 29. まとめ① 30. まとめ②			
評価方法	(1)出席、平常点:20% (2)発表:40% (3)レポート:40%		
準備学習 (予習)	毎回の課題に対して、きちんと準備してくること。		
準備学習 (復習)	授業中に扱った作品は読んでおくこと。		
教科書			

学校教育相談特論		
山田 麻有美		
講義科目	秋学期	4単位
講義概要 講義の進め方はおおよそ次のようである。まず履修者は、発達心理学の基礎的な知見を学ぶと同時に、各自の問題意識や経験した事例をまとめ、報告する。次に、その報告について履修者全員で、講義担当者の指導の下に、事例研究的方法あるいはワークショップ形式により検討を加えていく。学校における教育相談すなわち子ども一人ひとりへの適切な援助のあり方を積極的に探っていきたい。		
授業計画 1. 学校教育と発達心理学 1－発達心理学の理論・方法・課題① 2. 学校教育と発達心理学 1－発達心理学の理論・方法・課題② 3. 学校教育と発達心理学 2－幼児・児童・生徒の心理発達の概観① 4. 学校教育と発達心理学 2－幼児・児童・生徒の心理発達の概観② 5. 学校教育と発達心理学 3－典型的でない発達を見せる幼児・児童・生徒への対応① 6. 学校教育と発達心理学 3－典型的でない発達を見せる幼児・児童・生徒への対応② 7. 教育における心理学的課題① 8. 教育における心理学的課題② 9. 学校における心理学的課題① 10. 学校における心理学的課題② 11. 教師の教育相談的態度 1 ① 12. 教師の教育相談的態度 1 ② 13. 教師の教育相談的態度 2 ① 14. 教師の教育相談的態度 2 ② 15. 教師の教育相談の態度 3 ① 16. 教師の教育相談の態度 3 ② 17. 日常の教育相談 1 ① 18. 日常の教育相談 1 ② 19. 日常の教育相談 2 ① 20. 日常の教育相談 2 ② 21. 日常の教育相談 3 ① 22. 日常の教育相談 3 ② 23. 教師の行う教育相談の実際 1 ① 24. 教師の行う教育相談の実際 1 ② 25. 教師の行う教育相談の実際 2 ① 26. 教師の行う教育相談の実際 2 ② 27. 教師の行う教育相談の実際 3 ① 28. 教師の行う教育相談の実際 3 ② 29. 総括① 30. 総括②		
評価方法	(1)課題:50% (2)発表:50%	
準備学習 (予習)	次回に検討するテーマや事例に対する各自の視点・意見を整理すること。	
準備学習 (復習)	検討したテーマや事例についての様々な視点・意見を整理することが必要である。	
教科書		

児童音楽表現法特論		
村山 順吉		
講義科目	春学期	4単位
講義概要 本講義は、初めに音楽固有の特性について、いくつかの側面から探る。そのうえで＜子ども＞という他者との、音楽を通じての活きたかかわりを実現するために、様々な実践も取り入れながら進めていく。		
授業計画 1. 様々な音の位置付け① 2. 様々な音の位置付け② 3. 音楽における音に込められたメッセージ① 4. 音楽における音に込められたメッセージ② 5. 音楽の形式① 6. 音楽の形式② 7. 創作の試み(1)① 8. 創作の試み(1)② 9. 創作の試み(2)① 10. 創作の試み(2)② 11. 創作の試み(3)① 12. 創作の試み(3)② 13. 創作の試み(4)① 14. 創作の試み(4)② 15. 即興的音楽表現の試み(1)① 16. 即興的音楽表現の試み(1)② 17. 即興的音楽表現の試み(2)① 18. 即興的音楽表現の試み(2)② 19. 手作り楽器製作を通して① 20. 手作り楽器製作を通して② 21. 表現に関する様々な分野とのかかわり(1)① 22. 表現に関する様々な分野とのかかわり(1)② 23. 表現に関する様々な分野とのかかわり(2)① 24. 表現に関する様々な分野とのかかわり(2)② 25. 表現に関する様々な分野とのかかわり(3)① 26. 表現に関する様々な分野とのかかわり(3)② 27. 音楽と時間について① 28. 音楽と時間について② 29. まとめ① 30. まとめ②		
評価方法	(1)出席率:50% (2)レポート:50%	
準備学習 (予習)	楽譜を読む力をつけておくこと。	
準備学習 (復習)	楽器演奏のための練習課題、小さな曲の創作課題、その他課題を与えるので、毎回しっかり取り組むこと。	
教科書		

臨床死生学・牧会カウンセリング・スピリチュアルケア分野科目群

グリーフケア特論			伊藤 高章
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
時間的存在であり、死を避けられない人間にとって、喪失は不可避である。そして、感情を持つ人間にとって、グリーフ（悲嘆）も不可避である。個人にとって、人生のどの段階（ライフサイクル）でどのようなグリーフを経験するかで、その意味や影響が大きく異なってくる。また、グリーフへの対処の仕方は、文化的・社会的に象徴化されている。さらに、グリーフは、個人のテーマであるだけでなく、家族、共同体、国家、時代等にとっての課題でもある。本講義では、人生にとって最も大きな課題の一つであるグリーフについて、多面的に理解を深める。また、グリーフを抱える個人・共同体・国家・時代等へのケアについて検討する。文献による学びと共に、受講生の様々な経験の分かち合いによる学びを重視する。			
授業計画			
1. 喪失体験とグリーフ① 2. 喪失体験とグリーフ② 3. グリーフの心身への影響① 4. グリーフの心身への影響② 5. 現代社会とグリーフ① 6. 現代社会とグリーフ② 7. 家族との死別 1 ① 8. 家族との死別 1 ② 9. 家族との死別 2 ① 10. 家族との死別 2 ② 11. 家族との死別 3 ① 12. 家族との死別 3 ② 13. 社会的役割の喪失:退職・失職・転職① 14. 社会的役割の喪失:退職・失職・転職② 15. 身体機能の喪失① 16. 身体機能の喪失② 17. 「未来」「日常性」の喪失① 18. 「未来」「日常性」の喪失② 19. 公認されない喪失① 20. 公認されない喪失② 21. 共同体のグリーフ① 22. 共同体のグリーフ② 23. 国家のグリーフ① 24. 国家のグリーフ② 25. 時代のグリーフ① 26. 時代のグリーフ② 27. グリーフケア提供者のグリーフ① 28. グリーフケア提供者のグリーフ② 29. まとめ① 30. まとめ②			
評価方法	(1)出席、ディスカッション:30% (2)プレゼンテーション:40% (3)レポート:30%		
準備学習 (予習)	毎週、教科書もしくは参考文献を1～2章ずつ検討する。		
準備学習 (復習)	授業内容を各自の経験に照らして、リアクション・ペーパーを書く。		
教科書	小此木 啓吾 『対象喪失―悲しむということ（中公新書（557））』（中央公論新社）		

スピリチュアルケア特論			窪寺 俊之
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
自然・文化・民俗・宗教のスピリチュアリティを取りあげ、その特徴を明らかにし、臨床での応用について考える。受講生が臨床で出会う患者・家族・死に逝く人のケースを取りあげて、スピリチュアルケアの可能性を考える。また、スピリチュアルケアの実現化のための制度・人材養成・報酬のことにも触れる。			
授業計画			
1. 先行研究論文の読解I① 2. 先行研究論文の読解I② 3. 先行研究論文の読解I③ 4. 先行研究論文の読解I④ 5. 先行研究論文の読解III① 6. 先行研究論文の読解III② 7. 先行研究論文の分析I① 8. 先行研究論文の分析I② 9. 先行研究論文の分析II① 10. 先行研究論文の分析II② 11. 先行研究論文の分析III① 12. 先行研究論文の分析III② 13. 研究論文の執筆入門I① 14. 研究論文の執筆入門I② 15. 研究論文の執筆入門II① 16. 研究論文の執筆入門II② 17. 研究論文の執筆入門III① 18. 研究論文の執筆入門III② 19. 研究論文の執筆入門IV① 20. 研究論文の執筆入門IV② 21. 研究論文の発表I① 22. 研究論文の発表I② 23. 研究論文の発表II① 24. 研究論文の発表II② 25. 研究論文評価と発展I① 26. 研究論文評価と発展I② 27. 研究論文評価と発展II① 28. 研究論文評価と発展II② 29. まとめ① 30. まとめ②			
評価方法	(1)レポート:50% (2)出席:30% (3)授業貢献度:20%		
準備学習 (予習)	春学期「スピリチュアルケア研究」の継続。エリザベス・ジョンストン・ティラー『スピリチュアルケア』(医学書院)を使用。		
準備学習 (復習)	講義を整理し、要点をまとめておく。		
教科書	窪寺 俊之『スピリチュアルケア入門』(三輪書店)窪寺 俊之『スピリチュアルケア学序説』(三輪書店)窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説(関西学院大学論文叢書)』(三輪書店)ルース・L. コップ,Ruth Lewshenia Kopp, 大西 和子, 窪寺 俊之『愛する人が死にゆくとき—ヒューマンケアへのアプローチ』(相川書房)シャロン・フィッシュ, ジュディ・シェリー, 窪寺 俊之, 福嶋 知恵子『スピリチュアルケアにおける看護師の役割』(いのちのことば社)D. D. ウィリアムズ 窪寺 俊之『魂への配慮 (1981年)』(日本基督教団出版局)		

キリスト教とカウンセリングⅠ			藤掛 明
講義科目	春学期	4単位	
講義概要			
キリスト教とカウンセリングⅠでは、カウンセリングの一般的な原理、原則を学ぶことを目標とする。ただし、次のような観点から、深く掘り下げることで、現代社会における人間援助のあり方や、それに由来するグリーフやスピリチュアルなケアのあり方を理解することにも益するものとする。 第一に、近代科学主義では対応しきれない心や魂の問題を、カウンセリングはどのような原理、原則に拠って扱っていくのか。それらの原理、原則は、宗教やキリスト教信仰のあり方とどのような関連があるのか、を扱う。 第二に、現代社会の病理ともいえる「自己愛」「依存・嗜癖」「中年期の逸脱」などをとりあげ、これらに対するアセスメントとカウンセリングの実践を紹介するとともに、なぜ、信仰者、聖職者であっても、これらの病理に陥ってしまうことがあるのか、を扱う。			
授業計画			
1. 臨床の知、魂の知を考える（人を理解するための接近法）① 2. 臨床の知、魂の知を考える（人を理解するための接近法）② 3. 臨床の知、魂の知を考える（相互作用性と多義性）① 4. 臨床の知、魂の知を考える（相互作用性と多義性）② 5. 臨床の知、魂の知を考える（個別性）① 6. 臨床の知、魂の知を考える（個別性）② 7. 臨床の知、魂の知を考える（曖昧さや神秘体験の感受性）① 8. 臨床の知、魂の知を考える（曖昧さや神秘体験の感受性）② 9. 宗教者と人格障害問題（贖罪信仰と自己愛性病理）① 10. 宗教者と人格障害問題（贖罪信仰と自己愛性病理）② 11. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例1）① 12. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例1）② 13. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例2）① 14. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例2）② 15. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例3）① 16. 宗教者と人格障害問題（自己愛性病理と事例3）② 17. 宗教者と依存・嗜癖問題（偶像礼拝と依存・嗜癖病理）① 18. 宗教者と依存・嗜癖問題（偶像礼拝と依存・嗜癖病理）② 19. 宗教者と依存・嗜癖問題（アルコール依存症）① 20. 宗教者と依存・嗜癖問題（アルコール依存症）② 21. 宗教者と依存・嗜癖問題（ギャンブル依存症）① 22. 宗教者と依存・嗜癖問題（ギャンブル依存症）② 23. 宗教者と依存・嗜癖問題（教会と自助グループ）① 24. 宗教者と依存・嗜癖問題（教会と自助グループ）② 25. 宗教者と発達心理（聖化と中年期危機）① 26. 宗教者と発達心理（聖化と中年期危機）② 27. 宗教者と発達心理（メンタルヘルス）① 28. 宗教者と発達心理（メンタルヘルス）② 29. まとめと課題① 30. まとめと課題②			
評価方法	(1)平常点(討議参加):30% (2)レポート:70%		
準備学習 (予習)	授業計画や、授業内で行う予告を参考にインターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。		
準備学習 (復習)	受講生の臨床的理解力や要望も柔軟に考慮していく。授業で得た体験知を、毎回、配付資料や紹介文献を授業後に読むことを期待している。		
教科書			

キリスト教とカウンセリングⅡ			堀 肇
講義科目	秋学期	4単位	
講義概要			
先ずカウンセリングの定義を明確にし、キリスト教とカウンセリングの関係を現代の牧会カウンセリングに至るまで歴史的に概観する。続いてキリスト教の人間観と人格理解を明らかにした上で、受容、共感、傾聴、コンフロンテーション(対決)などの基本的な技法を学ぶ。加えてキリスト教カウンセリングに援用できる心理療法の理論を学び、特にフランク心理学については、主著2冊を必読書とし、キリスト教との関係を考察する。最後にキリスト教独自の心理臨床・魂への配慮のあり方をキリスト教的愛(アガペー)を中心に学ぶ。			
授業計画			
1. キリスト教とカウンセリングの定義① 2. キリスト教とカウンセリングの定義② 3. キリスト教カウンセリングの歴史① 4. キリスト教カウンセリングの歴史② 5. キリスト教カウンセリングの人間観① 6. キリスト教カウンセリングの人間観② 7. キリスト教カウンセリングの人格論① 8. キリスト教カウンセリングの人格論② 9. キリスト教カウンセリングの基本的態度① 10. キリスト教カウンセリングの基本的態度② 11. キリスト教カウンセリングの基本的態度① 12. キリスト教カウンセリングの基本的態度② 13. キリスト教カウンセリングにおける受容① 14. キリスト教カウンセリングにおける受容② 15. キリスト教カウンセリングにおける共感① 16. キリスト教カウンセリングにおける共感② 17. 精神分析の応用① 18. 精神分析の応用② 19. 交流分析の応用① 20. 交流分析の応用② 21. 家族療法の応用① 22. 家族療法の応用② 23. 発達心理学の応用① 24. 発達心理学の応用② 25. フランク心理学の応用① 26. フランク心理学の応用② 27. キリスト教とスピリチュアルケア① 28. キリスト教とスピリチュアルケア② 29. キリスト教的愛と心理療法① 30. キリスト教的愛と心理療法②			
評価方法	(1)出席率:50% (2)レポート:40% (3)その他:10%		
準備学習 (予習)	授業計画書を確認し指定された資料・参考文献などを読んでくること。また事例の発表者はプリントを書式に従ってを用意すること。		
準備学習 (復習)	毎回、学んだ内容を確認・整理し、その要約を発表できるようにしておくこと。それに加え、質問も含め自分の意見が言えるようにすること。		
教科書			

演習科目Ⅰ

キリスト教カウンセリング事例研究		
藤掛 明		
講義科目	秋学期	4単位
講義概要 キリスト教カウンセリング事例研究では、実際の事例(宗教的背景を持つ事例を含む)を分析するとことを学習する。なお、事例研究を行うにあたっては、その前提となる、事例検討の方法、心理アセスメント、家族アセスメントの諸技法の実習などを行い、一般的な事例研究のスキルを身につけられるようにしたい。		
授業計画 1. 事例研究の特質と方法① 2. 事例研究の特質と方法② 3. 事例研究の特質と方法③ 4. 事例研究の特質と方法④ 5. 事例研究の特質と方法⑤ 6. 事例研究の特質と方法⑥ 7. 心理アセスメントの諸技法(エゴグラム)① 8. 心理アセスメントの諸技法(エゴグラム)② 9. 心理アセスメントの諸技法(SCT)① 10. 心理アセスメントの諸技法(SCT)② 11. 心理アセスメントの諸技法(TAT)① 12. 心理アセスメントの諸技法(TAT)② 13. 家族のアセスメント(家系図、出生順位)① 14. 家族のアセスメント(家系図、出生順位)② 15. 心理療法の諸技法(概論、コラージュ療法の体験)① 16. 心理療法の諸技法(概論、コラージュ療法の体験)② 17. 心理療法の諸技法(概論、コラージュ療法の体験)③ 18. 心理療法の諸技法(概論、コラージュ療法の体験)④ 19. 心理療法の諸技法(概論、コラージュ療法の体験)⑤ 20. 心理療法の諸技法(概論、コラージュ療法の体験)⑥ 21. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)① 22. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)② 23. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)③ 24. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)④ 25. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)⑤ 26. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)⑥ 27. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)⑦ 28. 実際の事例の検討(すでに公開されている事例、及び受講生からの提供事例)⑧ 29. まとめ(カウンセリングの倫理と宗教を中心に)と課題① 30. まとめ(カウンセリングの倫理と宗教を中心に)と課題②		
評価方法	(1)点:30% (2)レポート:70%	
準備学習(予習)	授業計画や授業内で行う予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。	
準備学習(復習)	受講生の臨床的理解力や要望も柔軟に考慮していく。毎回、配付する資料や紹介する文献を授業後に読むことを期待している。	
教科書		

社会福祉学研究演習Ⅰ		
牛津 信忠		
演習科目	秋学期	2単位
講義概要 社会福祉学の領域、特に理論と歴史、更に福祉文化に関するテーマで修士論文の作成を目指す学生に、その究明の前提となる福祉哲学までほり下げた研究指導を行う。社会福祉の体系論や、その基軸となっている福祉思想、とくに人格主義的福祉哲学などの理論分析を行うが、演習参加者には、その理論が生かされる生活の場、地域社会における実践理論の研究という社会福祉の具体を忘却することのない研究態度が絶えず求められる。		
授業計画 1. 研究計画の再確認(全般) 2. 研究計画の再確認(とくに研究目標について) 3. 研究計画の再確認(とくに方法論的考察) 4. 研究計画の再確認(とくに方法論的考察2) 5. 研究の進捗に応じた個別指導 6. 研究の進捗に応じた個別指導 7. 研究の進捗に応じた個別指導 8. 研究の進捗に応じた個別指導 9. 研究の進捗に応じた個別指導 10. 研究の進捗に応じた個別指導 11. 研究の進捗に応じた個別指導 12. 研究の進捗に応じた個別指導 13. 全体構成の確認 14. 論の整合性に関して 15. 全体の再確認と今後の研究の展望		
評価方法	(1)修士論文進捗状況:50% (2)出席率:50%	
準備学習(予習)	面談学習の前後に、関連分野の著作に親しみ、視野を広げるとともに、課題に関する緻密な思考をしておくように要望する。	
準備学習(復習)	授業の後に於いて、論文作成という最終目的に即して、学んだことを生かして、論文の進捗を図る。	
教科書	牛津 信忠『社会福祉における相互的人格主義〈1〉一人間の物象化からの離脱と真の主体化をめざして』(久美) 牛津 信忠『社会福祉における相互的人格主義〈2〉一人間の物象化からの離脱と真の主体化をめざして』(久美) ロバート ピンカー, Robert Pinker, 星野 政明, 牛津 信忠『社会福祉三つのモデル—福祉原理論の探求』(黎明書房) 牛津 信忠『社会福祉における場の究明—共感的共同からトボスへ至る現象学的考察』(丸善プラネット)	

ソーシャルワーク研究演習Ⅰ			助川 征雄
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
広く社会福祉領域のテーマを修士論文とする院生に対し研究指導を行う。特に今後の福祉実践を切り開くための論考に重点を置く。具体的には、まず、基礎理論として、ストレンクス理論やリカバリー理論の要点の習得を求める。同時に、研究テーマに沿い、個別指導の形で論文作成のための論考を進める。なお、本職のPSW経験を活かす意味で、精神保健福祉領域のテーマを有する学生諸君を特に歓迎する。			
授業計画			
1. オリエンテーション（テーマおよび研究法について） 2. 個別指導(1) 3. 個別指導(2) 4. 個別指導(3) 5. 個別指導(4) 6. 個別指導(5) 7. 中間発表・討議 8. 個別指導(6) 9. 個別指導(7) 10. 個別指導(8) 11. 個別指導(9) 12. 個別指導(10) 13. 個別指導(11) 14. 全体発表・討議 15. まとめ			
評価方法	(1)論文準備、中間発表:100%		
準備学習 (予習)	1ヶ月に1～2度のペースで、個別指導を行うので、その都度、疑問点を整理し発表準備をすること。		
準備学習 (復習)	不確かな専門用語や概念については、その日のうちに調べておくこと。		
教科書	チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ、田中 英樹 監訳 『ストレンクスモデル[第3版]—リカバリー志向の精神保健福祉サービス』（金剛出版）		

児童学研究演習Ⅰ			田澤 薫
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
受講生の問題関心をふまえ、修士論文執筆を念頭におきながら必要な研究手法を学ぶ。授業の前半では、既存の研究論文を素材としながら、研究することとその成果を文章にまとめて論文を作成することの方法を学ぶ。授業の後半では、受講生の問題関心にそった修論執筆準備としての研究方法を学び、実際に研究に着手する。併せて、研究した成果を報告することを通して成果発表の方法を身につける。			
授業計画			
1. はじめに 「児童」を研究すること 2. 文献検討の準備 3. 文献検討(1)施設児童の学校教育 4. 文献検討(2)施設児童の進学 5. 文献検討(3)施設と学校の関わり 6. 文献検討(4)キリスト教施設と公教育 7. 文献検討(5)教育と児童福祉の課題 8. 資料検討と課題報告(1) 9. 資料検討と課題報告(2) 10. 資料検討と課題報告(3) 11. 資料検討と課題報告(4) 12. 資料検討と課題報告(5) 13. 資料検討と課題報告(6) 14. 資料検討と課題報告(7) 15. 総括			
評価方法	(1)出席率:25% (2)課題報告:25% (3)レポート:50%		
準備学習(予習)	授業の中で指示する文献、配布する論文等の資料を必ず指定された授業回までに読んでから授業に参加する。授業の中で担う課題報告の準備に主体的に取り組む。		
準備学習(復習)	授業内容はすべて修士論文作成に直結するものです。授業中の議論は、忘れないうちに、必ず文章化して整理しておきましょう。		
教科書	田澤 薫 『仙台基督教育院院史からよむ育児院と学校』（東北大学出版会）		

発達心理学研究演習Ⅰ			石川 由美子
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
教員による個別指導と演習参加者の集団における発表、質疑応答、討論を組み合わせて行う。内容は修士論文のテーマによって異なる。先行研究のレビュー、論文テーマの設定、研究計画を作成し、修士論文作成への準備を行う。			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 3. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 4. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 5. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 6. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 7. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 8. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 9. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 10. 先行研究レビュー、レビューの発表・質疑応答・討論、各自のテーマに関する個別指導を行う。 11. 修士論文テーマに沿った研究計画の作成、個別論文指導 12. 修士論文テーマに沿った研究計画の作成、個別論文指導 13. 修士論文テーマに沿った研究計画の作成、個別論文指導 14. 修士論文テーマに沿った研究計画の作成、個別論文指導 15. 修士論文テーマに沿った研究計画の作成、個別論文指導			
評価方法	(1)参加率:50% (2)研究計画:50%		
準備学習 (予習)	関心のあるテーマに関する論文についてのレビューを毎回持参することを望む。		
準備学習 (復習)	講義でのクリティカルな討議の内容を再確認しておくこと。		
教科書			

高齢者保健福祉研究演習 I			古谷野 亘
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、修士課程での研究を始めた学生に対して、個別的な指導と並行して、中間発表と討論、相互批判の機会を提供する。			
授業計画			
1. 基礎的文献の講読と討議 (1) 2. 基礎的文献の講読と討議 (2) 3. 基礎的文献の講読と討議 (3) 4. 基礎的文献の講読と討議 (4) 5. 基礎的文献の講読と討議 (5) 6. 研究の中間発表と討議 (1) 7. 研究の中間発表と討議 (2) 8. 研究の中間発表と討議 (3) 9. 研究の中間発表と討議 (4) 10. 研究の中間発表と討議 (5) 11. 研究の中間発表と討議 (6) 12. 研究の中間発表と討議 (7) 13. 研究の中間発表と討議 (8) 14. 研究の中間発表と討議 (9) 15. 研究の中間発表と討議 (10)			
評価方法	(1)平常点:100%		
準備学習 (予習)	独創的で高度な研究と内容のある議論を期待する。この期待に応えるためには相当の準備と真摯な取り組みが求められる。		
準備学習 (復習)	授業時間中の討議を自分の研究に生かせるよう理解し、考察することが必要である。		
教科書			

障害者福祉研究演習Ⅰ			木下 大生
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
修士論文のテーマを、障害がある人、とりわけ知的に障害がある人、もしくは関連する制度・政策に関連するものに定めている院生に対して研究指導を行う。			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. 個別指導1 3. 個別指導2 4. 個別指導3 5. 個別指導4 6. 個別指導5 7. 個別指導6 8. 個別指導7 9. 個別指導8 10. 個別指導9 11. 個別指導10 12. 個別指導11 13. 個別指導12 14. 個別指導13 15. まとめ			
評価方法	(1)参加態度、姿勢、課題:100%		
準備学習 (予習)	毎回出される課題に取り組む。		
準備学習 (復習)	個別指導になるため、毎回教員からなされる指導を振り返り、また出された課題に取り組んでくること。		
教科書			

精神保健福祉研究演習Ⅰ			相川 章子
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
精神保健福祉に関するテーマを取り上げて修士論文を作成しようとする院生に対して、研究指導を行う。 受講者は関心があり探求しようとする研究テーマについて、個別指導の中で研究の方法、論理的に論文を仕上げていくプロセスについて学ぶとともに、定められた全体討議や「中間発表会」等への参加するものとする。			
授業計画			
1. 1 オリエンテーション 2. 個別指導 3. 個別指導 4. 個別指導 5. 個別指導 6. 個別指導 7. 全体討議（中間発表会） 8. 個別指導 9. 個別指導 10. 個別指導 11. 個別指導 12. 個別指導 13. 個別指導 14. 全体討議 15. まとめ			
評価方法	(1)修士論文、討議:100%		
準備学習（予習）	個別指導の際に都度、研究の進捗状況や指導に際し必要な中間報告等のレジメを用意し提出すること。		
準備学習（復習）	個別指導での内容について自分なりに吟味し、論文作成へ生かす。		
教科書			

児童福祉研究演習Ⅰ			中谷 茂一
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
児童福祉分野のうち、子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマが担当教員の研究領域となるが、それ以外でも子どもや家族・学校に関連するテーマであれば指導可能である。児童福祉特論を受講済みであることが望ましいが、1年次の途中からのテーマの変更などの場合、平行履修も可とする。受講者の興味関心、現在のフィールドを踏まえながら、問題意識の整理、論文構成案作成、資料収集、先行研究のレビュー、調査、論述、考察と段階を踏んで進行していけるよう指導する。			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. テーマ設定と論文作成について 3. 研究計画作成 4. 論文章立て作成 5. 個別論文指導 6. 個別論文指導 7. 個別論文指導 8. 個別論文指導 9. 個別論文指導 10. 個別論文指導 11. 個別論文指導 12. 個別論文指導 13. 個別論文指導 14. 個別論文指導 15. 個別論文指導			
評価方法	(1)出席率:20% (2)修士論文:80%		
準備学習 (予習)	自分の研究テーマに関する文献の検索およびレビューを継続的に取り組みながら、本演習時に受けたアドバイスを次回に反映させるよう意識することが望まれる。		
準備学習 (復習)	自分の研究テーマに関する文献の検索およびレビューを継続的に取り組みながら、本演習時に受けたアドバイスを次回に反映させるよう意識することが望まれる。		
教科書			

異文化間教育研究演習Ⅰ			佐藤 千瀬
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
異文化間教育に関するテーマで修士論文を書く院生を対象にした演習である。「異文化間教育」とは、2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握することと同時に、人間形成や発達をどのように組織していくかを検討していくことである。			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. 研究テーマ 3. 先行研究の検索・収集 4. 先行研究の検討 5. 先行研究の検討 6. 先行研究の整理 7. 研究目的の設定 8. 研究方法 9. 研究方法 10. 研究方法 11. 研究計画 12. 研究計画 13. 論文の作成 14. 論文の作成 15. 総括			
評価方法	(1)平常点:30% (2)課題:70%		
準備学習 (予習)	授業で指示された文献や配布資料を必ず読むこと。課題の準備を計画的に行うこと。		
準備学習 (復習)	授業で指摘された箇所について、必ず修正し提出すること。		
教科書			

スピリチュアルケア研究演習Ⅰ		
		窪寺 俊之
演習科目	秋学期	2単位
講義概要		
修士論文作成の指導を行う。学術論文（日本語、外国語）を読むことに慣れ、自分でも論文作成できるように指導する。修士論文のテーマの選定、問題（テーマ）の絞り方、資料の集め方と整理のしかたを教える。その上で論文を作成することを学ぶ。		
授業計画		
1.『スピリチュアルケア入門』の講読① 2.『スピリチュアルケア入門』の講読② 3.『スピリチュアルケア入門』の講読③ 4.『スピリチュアルケア入門』の講読④ 5.『スピリチュアルケア入門』の講読⑤ 6.『スピリチュアルケア序説』の講読① 7.『スピリチュアルケア序説』の講読② 8.『スピリチュアルケア序説』の講読③ 9.『スピリチュアルケア序説』の講読④ 10.『スピリチュアルケア序説』の講読⑤ 11.『スピリチュアルケア概説』の講読① 12.『スピリチュアルケア概説』の講読② 13.『スピリチュアルケア概説』の講読③ 14.『スピリチュアルケア概説』の講読④ 15.『スピリチュアルケア概説』の講読⑤		
評価方法	(1)出席率:30% (2)発表:20% (3)提出物:50%	
準備学習 (予習)	森田達也『臨床をしながら国際水準の研究のまとめ方』を読んでおく。	
準備学習 (復習)	森田達也『臨床をしながら国際水準の研究のまとめ方』を読み、まとめ、自分なりに整理する。	
教科書	窪寺 俊之『スピリチュアルケア入門』（三輪書店）窪寺 俊之『スピリチュアルケア学序説』（三輪書店）窪寺 俊之『スピリチュアルケア学概説（関西学院大学論文叢書）』（三輪書店）	

キリスト教カウンセリング研究演習Ⅰ			藤掛 明
演習科目	秋学期	2単位	
講義概要			
キリスト教カウンセリング演習では、修士論文を作成する学生に対して、研究指導を行う。研究テーマは、キリスト教界あるいはキリスト信仰者を対象としたもので、心理的問題を臨床心理学的手法により解明することを目指す。主に数量的リサーチおよび事例検討を想定している。 なお、キリスト教に限らず、その他の宗教者や宗教組織を対象としたもの、また対人援助職全般やその組織を対象としたものも、上述のような臨床心理学的立場からであれば指導する。			
授業計画			
1. 研究方法の学習 2. 研究方法の学習 3. 実際の事例研究論文の学習 4. 実際の統計論文の学習 5. 履修者による研究報告と討議 6. 履修者による研究報告と討議 7. 履修者による先行研究論文の紹介 8. 履修者による先行研究論文の紹介 9. 中間発表 10. 中間発表 11. 研究を発表する方法 12. 研究を発表する方法 13. 履修者による研究報告と討議 14. 履修者による研究報告と討議 15. まとめと課題			
評価方法	(1)平常点:100%		
準備学習 (予習)	毎回、個別に指定する課題を次回までに達成することが期待される。多くは関係論文の抄読を指定する予定である。		
準備学習 (復習)	毎回の指導内容を振り返り、自らの修士論文作成に生かすこと。		
教科書			